

# なかとんべつ 町議会だより

Volume

# 168

平成22年7月10日発行



敏音知山開き（6月20日）  
女性登山隊が704メートルの頂をめざします

口蹄疫侵入阻止と危機管理に全力を！  
ヒブワクチンなどの接種費用助成に道筋

第2回定例会議決結果 .....	2
私たちの一般質問 .....	4
報告案件 .....	8
可決された議案と意見書のあらまし .....	9
所管事務調査報告 .....	10
議員だより～私の思い～ .....	11
議会の動き・全道議長会報告・あとがき .....	12

発行 中頓別町議会  
編集 議会広報編集特別委員会  
お問合せ／北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6  
tel (01634) 6-2244 (直通) / fax 6-1155

# 選挙管理委員・補充員決まる

医師求人広告費を計上した国保病院事業補正予算可決！



## 第2回 定例会

口蹄疫への危機管理対処、地域医療問題  
防災対策、個別外部監査指摘事項への対応  
旧中農高の跡地利用など5議員が一般質問

平成22年第2回定例会が、6月10日から11日まで2日間の会期で開かれ、審議が順調に進んだため、会期を1日残し閉会しました。

冒頭の行政報告で野邑町長は、道との間で旧中頓別農業高校施設の譲与手続きが遅れていることについて、天北厚生園が利用する予定の生徒寮の配管老朽化の調査と破損施設の修繕のためと説明。医療圏でつながりの深い名寄、士別市両市を中心市とする「上川北部定住自立圏構想協議会」への参加と水はけの悪さなどで利用が低調だった農業体験交流施設「体験農園オガル」の圃場の再整備を道費負担事業で行うことを報告しました。

一般質問では、地域医療問題や口蹄疫対策、個別外部監査指摘事項への対応などについて5議員が一般質問を行いました。

町長から提案された条例案3件、一般会計補正予算など2件の補正予算案はいずれも原案どおり可決されました。

また、任期を迎えた公平委員会委員1名の選任同意が全会一致で議決されました。

選挙管理委員及び委員が欠けたときにその職務につく補充員の選挙が、有権者の中から議長の指名推薦によって行われ、それぞれ4名の委員・補充員が決まりました。

議会日程の最後に、ヒブワクチン、子宮頸がんワクチンの接種費用の助成などを道に求める「ワクチン接種に関する意見書」が発議され、全会一致で可決。質疑に答えた野邑町長は、本町としても、高額な両ワクチン接種費用助成の早期実現に向け検討することを表明しました。

# 第2回定例会で 決まりました



## 議決結果の一覧

### 人権擁護委員

人権擁護委員は、市町村の区域で人権擁護活動を行う、法務大臣から委嘱された民間人です。この制度は、地域住民の中から人格見識の優れた人たちを選び、その協力を得て、国民の日常生活の中で人権尊重思想の普及高揚を図るとともに、人権侵害による被害者を救済し、人権を擁護する制度です。

人権擁護委員候補者として、石井英正さん（中頓別・61歳）、角川拓雄さん（松音知・60歳）の両名が諮問され、全会一致で適任と答申しました。

### 公平委員会委員

公平委員会は、地方公務員法に基づき定められた行政委員会で3名の委員で構成されています。

地方公務員は、労働基本権が制限されているため、公平委員会はその代償として、中立的な立場で、地方公共団体の職員の利益の保護と公正な人事権の行使を保障する目的で設けられており、準司法的な権限もっています。

1名の委員が任期を迎えるため、高山哲也さん（中頓別・46歳）の選任に全会一致で同意しました。

### 選挙管理委員

選挙管理委員会は、4人の選挙管理委員で組織されます。選挙管理委員は、選挙権を有する者で、人格が高潔、政治及び選挙に関し公正な識見を有するもののうちから、普通地方公共団体の議会で選挙されます。任期は原則として4年です。

選挙管理委員の選挙は、議長による指名推薦で行われ、次の4名の方が当選されました。

- 佐藤美昭さん（中頓別・68歳・継続）
- 安積明さん（旭台・61歳・新）
- 細谷順子さん（中頓別・65歳・継続）
- 藤田朋美さん（中頓別・43歳・新）

### 選挙管理委員補充員

選挙管理委員の選挙に際して、委員と同数（4名）の補充員を選挙します。

補充員は、委員が欠員となった場合に補欠要員としてあらかじめ議会で選挙されるもので、任期は原則として委員の任期と同じです。補充員の選挙も委員の選挙と同様に議長による指名推薦で行われ、次の4名の方が当選されました。

- 1番 奥村文男さん（中頓別・57歳）
- 2番 菅原美和さん（中頓別・42歳）
- 3番 周防雅行さん（中頓別・60歳）
- 4番 四條佳理さん（中頓別・35歳）

- 議案第51号 語学指導等を行なう外国青年の給与等に関する条例（一部改正）
- 議案第52号 中頓別町野外レクリエーション施設の設置及び管理等に関する条例（制定）
- 議案第53号 中頓別町国民健康保険税条例（一部改正）
- 議案第54号 宗谷広域圏振興協議会の廃止
- 議案第55号 北海道市町村総合事務組合規約の変更
- 議案第56号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更
- 議案第57号 北海道市町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更
- 議案第58号 北海道市町村備荒資金組合規約の変更

- 議案第59号 平成22年度一般会計補正予算
  - 議案第60号 平成22年度国民健康保険病院事業会計補正予算
  - 諮問第1号 人権擁護委員候補者に対する意見
  - 諮問第2号 人権擁護委員候補者に対する意見
  - 同意第1号 公平委員会委員の選任同意
  - 選挙第1号 選挙管理委員の選挙
  - 選挙第2号 選挙管理委員補充員の選挙
  - 発議第1号 ワクチン接種に関する意見書
- ※以下は、報告案件
- 報告第1号 平成21年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告
  - 報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告
  - 報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告
- ※○は可決・同意・当選



ここが聞きたい、知りたい

# 私たちの一般質問

第2回定例会では、口蹄疫への備えや地域医療問題などをめぐり、5名の議員が一般質問を行いました。

## 口蹄疫に対する危機管理は？

藤田 首健

### 問 口蹄疫対策について

宮崎県内で口蹄疫の発生が確認されて以来、感染が拡大しており、一向に終息の気配を見せておらず、同県内の家畜農家は、まさに存亡の脅威にさらされている。

口蹄疫は家畜の伝染病の中でも最も伝播力が強いとされており、今後、夏の物流、観光時期を迎え、全国のいざこで発生するかもしれない状況を許さない状況となっている。本町の酪農家も消毒体制を強化し、侵入阻止に精一杯の努力をしているが、万が一、町内で発生した場合、町としてどのような対策をとる用意があるのか、危機管理について伺いたい。

### 答 野邑町長

本町としては、国、道の指導を受け、防疫に最大限の準備を進めている。

現在、中頓別町家畜自衛防疫組合を中心に対策を進めており、農家全戸に塩素系消毒薬に加え、消石灰3袋を無料配布した。今後は現在より警戒レベルを引き上げ、中頓別町家畜法定伝染病等対策本部の会議を招集し、防疫体制の強化を図るとともに、感染防止に対する意識を住民一体となつて高めていきたい。

いまは、発生後のことよりも、町内で発生させない対策に万全を期したいと考えている。

### 答 小林産業建設課参事

危機管理対策に関しては十分検討していききたい。特別措置法が成立して、殺処分に関しては、国が責任を持つ形になった。今後は、本町の地域防災計画（防災対策本部組織表）を準用し、人員等の配置を検討していききたい。

## 藤田議員に全道町村議会議長表彰

藤田副議長が、議員在職15年以上にわたり地方自治の振興発展に寄与した功労を称えられ、北海道町村議会議長会から表彰されました。

第2回定例会の開会前に石神議長から表彰状が伝達されました。



# 旧中頓別農業高校の跡地利用は？

西原 央 騎

広大な跡地・施設群が残る旧中農高跡地



## 問 施設の維持管理はどこで？

旧中頓別農業高校の跡地・施設については、道から町へ譲渡される予定だったが、どのような状況にあるのか。

また、施設群については、授産的な活用とともに、希望する住民についても利用できると聞いていたが、公平に利用するためのルールなどは定めたか。

同校の跡地は広く、建物も複数ある。グループホームなどもあり治安上の心配がある。維持管理あるいは運営などはどのように行う予定なのか。適切な管理と活用を進めるために民間への委託を検討する必要があるか。

## 答 小林まちづくり推進課長

旧中頓別農業高校の施設は、校舎解体後速やかに譲与される予定だったが、一部修繕の必要な箇所があり、それに伴う調査及び工事が完了する11月末まで延期される見通しである。それまでの間は、貸与契約を交わして活用することになる。

施設は、基本的に南宗谷福祉会天北厚生園が活用することになっている。現時点では活用の詳細な計画はできていないが、敷地、建物の維持管理については、同園と十分協議を行った上で適切に行いたい。

なお、天北厚生園で使用しない施設が生じた場合、他の活用を検討していきたい。

## 指定管理者には町外業者も公募対象に！

星 川 三喜男

## 問 個別外部監査指摘事項の取組状況について

本町は早期健全化団体となるにあたり、昨年、個別外部監査を受けた。町長は、執行方針で、「個別外部監査で指摘された事項に積極的に取り組み中頓別再生を図る」と述べており、次の点の取組状況と今後の見通しを伺う。

①実質公債費比率の削減は、財政健全化計画、公債費負担適正化計画どおり進んでいるか。

②補助団体への運営費補助の見直しは、当初予算段階の削減でいくらになるのか。

③下水道料金は、来年度から値上げするのか。

④個別外部監査報告には、「町内企業のみならず、町外に対しても積極的に外部委託を行い、最小限の経費で最大限の効果を」との提言がある。監査委員の指定管理者監査報告でも、町出資の第三セクターや公共的団体など民間企業の競い合いが制度導入の趣旨とあり、温泉や山村交流施設は、管理を一本化し、指定管理者を町外からも公募してコスト削減をめざすべきではないか。

## 答 野邑町長

①実質公債費比率は、平成22年度に25パーセントを切れると思う。今年度の地方交付税額にもよるので、明確な判断にはもう少し時間をいただきたい。

③下水道事業への繰出金、公債費、管理経費の削減状況などを踏まえて値上げの有無・時期を判断したい。

④直営よりも高くなる外部委託はありえない。財政的效果、住民に不便をかけないことを基本に外部委託をしていきたい。

## 答 遠藤総務課長

②前年度に比べ154万円の削減である。



小頓別以外にも送迎エリアの拡大を！

## 病院の送迎範囲拡大を！

本多夕紀江

**問** 福祉ハイヤーチケット枚数見直し！

公共交通機関が未整備の本町で福祉ハイヤー助成事業が行われていることはありがたいことであるが、今の枚数では通院だけでなくってしまふとの声がある。年をとってからも住みなれた地域で生き生きと暮らせるよう、必要な人には少し追加支給することはできないか。また、病院の通院送迎を小頓別方面以外にも広げる考えはないか。

**答** 竹内保健福祉課長

福祉ハイヤーの交通費助成事業では、身体障害者の肢体不自由者等で1、2級の方、70歳以上の高齢者を対象として医療機関等への交通手段を確保するためハイヤーチケットを交付している。平成21年度では205名にチケットを発行しており、利用率は73・9%。全部の枚数を使った方は数%、まったく使わなかった方は19%。同居家族の車保有の有無や低所得者と高所得者の所得差の関係など、個々の事情が異なり、公平性を欠く恐れがあるため、現在、追加発行は考えていない。

また、病院の送迎範囲等の拡大については、高齢化が進み自力での受診が難しくなる方がふえる傾向にあると思われる、検討が必要と考えている。

**答** 野邑町長

それぞれ利用の頻度割合が違うわけで何枚が妥当なのかという判断は難しい。ハイヤーチケット枚数をふやせばいいだけでなく、色々な面で町が高齢者のために温かい手を差し伸べて健康寿命を延ばすことも必要。早期健全化団体から脱却後、総合的な高齢者対策を考えていく必要性があり、今年一年間、福祉施策について検討するよう担当課に指示している。

## 防災対策は進んでいるか？

本多夕紀江

**問** 災害時の避難場所の周知徹底を！

旬報に「警報・注意報が市町村ごとの発表になります。自主避難など地域の防災活動に役立てましょう」と載っていた。最近の異常気象から、町も町民も災害（水害）に備えることが大切ではないか。防災計画、頓別川の河川整備、避難所、避難場所の住民への周知、自主防災組織の立ち上げ、ハザードマップの作成の状況を伺う。

**答** 遠藤総務課長

道から頓別川の基準水位の見直し、寿水位観測所の追加、気象庁より警報等の基準値変更が提示されていることから、防災計画を見直したい。

頓別川の河川整備は、「頓別川河川整備のあり方を検討する懇話会」を立ち上げ、今後の河川改修のあり方について道とも協議を重ねて、寿橋の下流域については一定の方向性を確認し、次年度以降より工事が進められるものと思う。避難所、避難場所は、広報等により早急に周知したい。ハザードマップは、今年度交付金事業で作成する。

**答** 小林まちづくり推進課長

寿橋下流域の河川整備は、治水、環境保全の観点、それぞれの中で一定の合意がとれて、土現、河川管理者の道もそれを尊重することになっている。ただ、最終的な話めの段階にあり、担保として何らかの書面を残すことになっている。合意に至っている部分も、基本的な考え方であり、河川改修が入る段になると、それぞれの箇所等で現場の確認などをしっかりした上で間違いのない整備、工事が進むよう懇話会のメンバーに参加いただきながら進めるという考えである。

次年度以降着手できるかは、今日の公共工事の縮減という流れの中で工事区域はまだ浜頓別町域にあり、来年度一部工事が入る可能性があるという段階である。

# これからも病院の確保を！

東海林 繁 幸

## 問 地域医療を考えるフォーラムについて

院長の退職問題に端を発して、住民は地域医療について重大な危機感と関心を持ち、病院の確保に意欲を表している。これらの活動に関し、理事者としてどう感じているのか。このような趣旨のフォーラムに対して町はどういうかかわり方ができるのか伺う。

## 答 野邑町長

地域医療に関する問題は、行政や議会だけの問題ではなく、地域住民自らが医療のあり方に危機感と関心を持ち行動されたことは、大変意義深いことであり敬意を表したい。本町にとって必要な医療はどうあるべきなのか、自ら学び考えることで理解できる。医療の継続には医師を初め医療スタッフの確保が欠かせないが、その確保の難しさを町民全体で共有できる機会となったので意義があったと考えている。  
今後このようなフォーラムには、人的な支援をできればしていきたい。  
フォーラムの中身については、広報で町民にお知らせしたいと考えている。

# 具体的なこどもの安心、安全対策は？

東海林 繁 幸



## 問 小児まちづくり推進課長

こどもの安心、安全宣言は、地域生活安全協会など町民団体からの提言に基づいて行った。町としては、幅広い施策を通してこどもたちが安心して地域の方々に温かく守られながら安全に生活できる環境づくりを今後のまちづくりの基本の一つに据えていきたい。  
具体的な施策は、今後地域生活安全協会など町民団体と協議をしながら進めていきたい。

## 問 安心、安全宣言後の施策は？

第1回定例会で、こどもの安心、安全宣言を全道に先駆けて実施したことは高く評価できる。この宣言にふさわしい取り組みが期待されるが、町としての今後の具体的な施策を伺う。

# 高齢者の能力積極的に活用を！

東海林 繁 幸

## 問 まちづくりと高齢者のかかわりは？

高齢者は、かつてまちづくりの当事者としてかかわり、今はその役割を終え静かに安定した生活をすることを希望していると考えられるのが一般的だが、果たしてそうか。健康で意欲的な高齢者はたくさんいる。公的な役割（例えば民生委員）に年齢を限定することが多いが、高齢化率34%の町で、高齢者を疎外するのは適切とは思われない。高齢者の能力をまちづくりに活用する考えはないか。

例えば高齢者事業団では、平成21年度の実績は16件、述べ53名である。高齢者でもできるような仕事が回ってこない実情にどのように対応するのか。

## 答 小児まちづくり推進課長

高齢者の能力活用に関する基本的な方針を定めたものはないが、町が設置している委員会や附属機関等で年齢制限等をしている実態はない。むしろ多くの委員会や附属機関、その他まちづくりの諸活動においても高齢者の方々の協力で進めていると認識しており、今後その考え方を基本に高齢者の経験に学ばせていただき、その知恵と知識を受け継ぎながらまちづくりを進めていきたい。

## 答 竹内保健福祉課長

高齢者事業団をいかに活性化して、多くの高齢者を受け入れていけるような方法はないか、今後事務局等と協議を進めてまいりたい。



不況の中、健闘が目立ったペンネシリ温泉

## 報告案件

地方自治法では、「会計年度独立の原則」（ある会計年度の歳出は当該会計年度の歳入で賄わなければならない）の例外として繰越明許費のしくみがあります。また、町が出資する法人等には、毎年度、経営状況を議会に報告する義務があり、その内容をお知らせします。

### 報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告

ペンネシリ温泉を管理運営する同社は、これまでの営業活動を継承し、地域の特色を前面に出して営業活動を進めた結果、会食利用者や温泉入館者数で前年度（平成20年度）を下回ったものの、宿泊者数・会食利用件数ではこれを上回りました。

#### ●損益計算結果、貸借対照表

- ・収益合計 38,803,017円
- ・費用合計 36,776,037円
- ・当期純利益 2,026,980円
- ・資産合計 19,577,862円
- ・負債合計 6,538,424円
- ・純資産合計 13,039,438円

#### ■利用状況

- ・宿泊者数（大人・小人）3,089人（前年比124.5%）
- ・入館者数（大人・小人・回数券・老人）15,051人（前年比92.5%）
- ・会食者数（利用件数）77件（前年比108.5%）
- ・会食者数（利用人数）1,320人（前年比92.2%）

### 報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、天北厚生園厨房業務等を営む同社全体の平成21年度経営状況は次のとおりです。

#### ●損益計算結果、貸借対照表

- ・収益合計 114,774,885円
- ・費用合計 112,595,742円
- ・当期純利益 2,179,143円
- ・資産合計 21,215,528円
- ・負債合計 6,491,685円
- ・純資産合計 14,723,843円

### 報告第1号 平成21年度 中頓別町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、経費の性質や予算成立後のなんらかの理由で、その年度内に支出を終わらない見込があるものについて、議会の議決（補正予算）を得て翌年度に限り繰り越して使用できる予算をいいます。

平成21年度から22年度に次の歳出予算（総務費・総務管理費）が繰り越されました。

（単位：千円）

事業名	繰越金額
防災情報通信設備購入事業	1,971
松音知水道管布設替事業	56,824
森林作業道路網整備事業	45,765
公営住宅等整備事業	10,380
消防吏員待機宿舍水洗化事業	3,200
観光施設整備修繕事業	11,445
橋梁改修事業	14,500
町道等補修事業	11,500
社会教育施設改修事業	2,320
歯科診療所改修事業	890
合計	158,795

## 議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な「しゃべり場」です。議会では、議会だよりで必要な情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

### ホームページで議事録などを公開しています

町のホームページ（<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>）で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから **町の概要** → **中頓別町議会** へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244（議会事務局）へ。

## ワクチン接種に関する意見書

毎年1,000人以上の5歳未満児が細菌性髄膜炎になるわが国では、その原因の6割がインフルエンザ菌b型（ヒブ）であり、2割が肺炎球菌と言われています。

細菌性髄膜炎の初期症状は、小児科医でも早期診断は困難であり、迅速な治療が施されても、ヒブの場合で3～5%、肺炎球菌の場合では10～15%の患児が死亡。生存した場合でも10～20%に脳と神経に重大な損傷が生じ、水頭症、難聴、脳性まひ、精神遅滞等の後遺症を引き起こします。

細菌性髄膜炎はワクチン接種により、発症率は100分の1にまで激減するものの、わが国での任意接種の費用は約3万円以上で、保護者の負担が重いことが大きな障壁です。

また、子宮頸がんは、年間で約15,000人が発症し、3,500人が死亡。しかし、他のがんと違い、その原因がヒトパピローマウイルス（HPV）の感染と解明され、若年層へのワクチン接種で予防が可能です。その費用は約5万円と多額です。

現在、一部市町村でワクチン接種費用の独自助成を行っています。道民が安心して接種を受けられるよう、次の事項を強く要望します。

- 1 細菌性髄膜炎を予防接種法の定期接種対象の一類疾病として国が承認するまでの間、ヒブワクチン及び7価肺炎球菌結合型ワクチンの接種費用を北海道が補助すること
- 2 子宮頸がんを予防接種法の定期接種対象の一類疾病として国が承認するまでの間、2価HPV様粒子ワクチンの接種費用を北海道が補助すること
- 3 細菌性髄膜炎及び子宮頸がんを予防接種法の定期接種対象の一類疾病と位置づけるよう国に要望すること

■発議者：東海林繁幸

■賛成者：西原央騎

■提出先：北海道知事

■平成22年6月10日可決

■質疑

○柳澤議員

当町として、両ワクチンの接種実態を踏まえ、費用の助成を検討すべきではないか。

●野邑町長

ヒブワクチンについての調査を昨年保健福祉課に指示した。幌加内町では、全額助成している。15歳までの医療費無料化を先に実施したが、早期に助成できるよう検討したい。子宮頸がんワクチンについても検討したい。

## 可決された議案と意見書のあらまし

○議案第51号 語学指導等を行なう外国青年の給与等に関する条例（一部改正）

条例で引用していた「財団法人自治体国際化交流協会」が誤表記であり、「財団法人自治体国際化協会」と訂正するものです。

○議案第52号 中頓別町野外レクリエーション施設の設置及び管理等に関する条例（制定）

教育委員会が管理している「寿パークゴルフ場」、「テニスコート」、「ゴルフ練習場」、「スポーツ広場」は、「面的な施設として共通点があり、これまで個々に定めてきた条例を整理一本化したものです。

○議案第53号 中頓別町国民健康保険税条例（一部改正）

政府管掌健康保険や共済組合などの被用者保険の被保険者本人が後期高齢者医療制度に移行した場合、被用者保険の被扶養者から国民健康保険者となったものに係る国民健康保険税について、当分の間、軽減措置を継続する改正です。

○議案第54号 宗谷広域圏振興協議会の廃止

社会経済情勢の変化や地方制度改革の進展の中で、従来の広域行政圏政策は当初の役割を終えたと判断。昭和46年に設立された同協議会の廃止を協議するために必要な議決です。

○議案第55号 北海道市町村総合事務組合規約の変更

○議案第56号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

○議案第57号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

○議案第58号 北海道市町村備荒資金組合規約の変更

「北海道総合振興局及び振興局設置に関する条例」の施行に伴い、これらの組合規約の支庁名、町村名等を変更するために必要な議決です。

○議案第59号 平成22年度一般会計補正予算

教育費において、中頓別中学校校舎の老朽化に伴い、集合煙筒及

び煙筒周辺の屋根修繕に74万円、ふれあいスポーツ広場の排水溝整備工事に80万円を計上。歳入は前年度繰越金を充当しています。これにより、一般会計の歳入歳出総額は、29億8千17万円になりました。

○議案第60号 平成22年度国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の支出において、医師求人広告費として32万円を計上。収入は同額の外来収益で充当。また、資本的収支の支出では、重油地下タンクの老朽化による油漏れがあるため、埋設配管の取替え工事に3百18万円を計上。収入は当年度分損益勘定留保資金で補てんされています。

いきいきふるさと  
常任委員会  
所管事務  
調査報告



教習生確保に町民のご協力を！厳しい経営が続く自動車学校

いきいきふるさと常任委員会では、閉会中の所管事務調査の結果を柳澤委員長が、6月10日の本会議で報告。その概略をお知らせします。

■自動車学校の運営（所管事務のうち緊急を要する事項）について  
中頓別町立自動車学校は、近年、まれに見る経営努力によって独立採算を維持してきたが、平成21年度決算において一般会計からの繰出しが決定的となった。

同校が抱える課題は、①収入増につながる教習生の確保、②教習車両等及び校舎の老朽化、③情報の受発信に必要な通信設備の整備、④人材（教習及び事務スタッフ）の育成などに集約される。

なかでも、逼迫しているのは、教習車両の更新、校舎トイレの水酸化や高齢者に対応したバリアフリー化、生徒募集等に必要な通信回線の整備などであり、職員の経営努力のみでは解消しがたい喫緊の課題が多い。

山積する課題を取り除き、経営を黒字化するためには自動車学校だけでなく、行政全体で知恵を出し合うべきである。

運転免許証は、過疎地に生きる住民の必要不可欠なライセンスの一つであり、高齢者講習を含め、地元で教習を受けられる体制をできる限り堅持されたい。

■自治基本条例等について

自治基本条例は、自治体の組織と運営のルールを定める「自治体の憲法」（最高規範）であり、その究極の目的は、住民福祉の増進にほかならない。

一方、総合計画は、自治体の政策を実現するための最上位の計画である。同計画を絵に描いた餅に

終わらせないためには、自治基本条例で、法務（権限）と財務の根拠・連動性を与える必要がある。

地方自治法の改正論議が行われる中、これまで義務付けだった基本構想の策定がはずれば、その根拠と定義づけは各自自治体に委ねられることになる。

現在、町民から意見募集が行われている「中頓別町自治基本条例素案」の前文に第6期総合計画のキャッチフレーズ、「一流の中頓別（いなか）づくり」が使われているが、自治体運営のルールを定める最高規範に選挙毎に変動のありえる政策的文言がなじむか疑問が浮かぶ。

条例は解説なしで理解できるよいう当初の段階から明瞭かつわかりやすくつくられなければならない。後に十人十色の解釈・価値観が生じやすい造語や引喩（いんゆ）は極力避けるべきである。

また、素案の「協働」（第3条第3項）の概念は不明確である。

自治体は本来住民の仕事で、住民の税金によって代行している。住民の代行機構としての職員機構を組織し制御するために、住民の代表機構として首長・議会を住民が選出する。したがって、職員は

首長・議会の補助機構である。主権者である住民（雇い主）は雇われ人（職員）を意のままに使うことが本分なのであって、もし、行政職員との協働を指すのであれば主客逆転を招くことになりかねない。市民（町民）公共を当然の前提と考え、「連携協力」程度の表現にとどめるべきであろう。

さらに素案では行政評価（第20条）について定めているが、その具体的内容が見えないので自治基本条例と同時に「行政評価条例」を施行させるべきである。

このほかにも、総合計画（第19条）や住民投票（第31条）など、素案のとおり条例を執行するため必要がある関連条例がいくつある。自治基本条例を生きた条例とするためには、関連条例の整備・体系化が欠かせないので早急に検討が必要である。

次の所管事務調査

いきいきふるさと常任委員会は、第3回（9月）定例会までに、次の事項の調査を行います。

- ①自治基本条例等、②環境基本計画、③総合計画、④所管事務のうち緊急を要する事項



行政と農業者団体等がいち早く口蹄疫侵入阻止対策を協議

## 議員だより

～私の思い～

このコーナーでは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴ります。

毎号2名の議員がこのコーナーに登場します。8議員の提言・苦言・呟きにご期待を！

### 口 蹄 疫

この議会だよりが、町民のみなさんに配布されるころ、宮崎県の口蹄疫が終息していることを願うばかりです。

口蹄疫は、伝播力の強い手ごわい疫病です。

いまから10年前の平成12年3月、92年ぶりに宮崎県で口蹄疫が発生し、5月には道内本別町の農場でも陽性2頭が確認され、疑似患者である703頭の牛とともに殺処分されました。

幸いこのときは早期発見、迅速な対応が功を奏し、6月に移動制限が解除されましたが、酪農家にとっては背筋が凍るできごとでした。

海外では、病原体が付着した塵により国境を越えた空気感染の例が報告されています。

42年前にイギリスで発生した口蹄疫はドーバー海峡を越えてフランスでの伝染を引き起こしました。ドーバー海峡は、最狭部で34キロですが、ウイルスが風雨で運ばれ感染拡大を招いたことは疑いがありません。

前回の流行に比べ、今回はウイルスの伝播力がかなり強いといえるでしょう。

問題は感染源ですが、いくつか考えられる要因のうち、輸入粗飼料の疑いは晴れていません。

輸入粗飼料は、全国各地、もちろん町内でも使われており、家畜農家の心配は尽きません。

ウイルスは、夏で4週間、冬では9週間生存するそうです。人や物が盛んに行き交うシーズンを迎え、もし、発生したらどうするのか、宮崎県は対岸の火事ではなく、全国の自治体が危機管理を試されることとなります。

テレビに映る埋設処理の光景には戦慄を覚えます。手塩にかけた家畜の命を絶たなければならなかった農業者の嗚咽が、画面から聴こえてくるような気がします。

(綴人：藤田首健)

### 古 稀

まもなく、中国の詩人・杜甫が、『人生七十古稀なり』と詠んだ歳を迎えます。日本人男性の平均寿命どおりなら、余生もあと十年になります。

ここまで長生きし、二人の孫と遊べる私は幸せ者でしょう。母は私が二十歳になる前に他界し、父も私が三十路を迎える前に亡くなりましたから、孫の顔を見ることはできませんでした。

私の家は畑作農家で、戦中、戦後の食糧難の時代も幸いひもじい思いはしませんでした。

どこの農家でも、子どもは貴重な働き手でした。小学生のときは風呂焚き、ランプのほや磨き、中学生になると芋掘りや麦刈りの仕事が待っていました。学校までは約5キロの道のりです。夏は歩きで冬はスキー通い。大病もせず古稀を迎えたのは、このころ体が鍛えられたおかげでしょう。

体の弱かった父は入退院の繰り返しで、私は老いた祖父母に代わり、中卒で家業を継ぎました。

しかし、馬鈴薯や麦だけでは食べていけません。布団一組を持って冬は出稼ぎです。焼酎の味を覚え、ときには取っ組み合いのけんかもあった飯場生活は辛くもあり、楽しくもありました。

やがて結婚、離農を経験し、授精師として農協に勤務させていただいた三十年あまりは、子宝にも恵まれ幸福なものでした。

視力は衰え、つまづくことが多発し、人の名前は思い出せず、何度も同じ話を繰り返すのが古稀、と後輩議員からは冷やかされ、巷からは引退勧告のささやきも聞こえてきそうです。

やがて訪れる生老病死、愛別離苦から、誰も逃れることはできません。お迎えが来るまで健康で夫婦睦まじく、晩酌を楽しみ、孫に遊ばれ、たまには温泉旅行と、欲張りな古稀の願いがかなうのか、それは仏様のみが知るところです。

(綴人：石神忠信)

※次回は、西原議員、本多議員です！

## 議会の動き

### 22年4月

- 19日 いきいきふるさと常任委員会  
議会運営委員会  
議会広報編集特別委員会
- 28日 宗谷町村議会議長会臨時総会（稚内市）

### 5月

- 5日 中頓別町自衛隊協力会通常総会
- 7日 いきいきふるさと常任委員会
- 9日 中頓別町クリーン作戦
- 12日 宗谷管内町村議会議員研修会（利尻富士町）
- 18日 中頓別町農業協同組合第62回通常総会
- 20日 中頓別町商工会通常総会
- 21日 いきいきふるさと常任委員会
- 22日 観光協会通常総会
- 23日 南宗谷消防組合中頓別消防団春季消防演習
- 24日 天北線代替輸送連絡調整協議会及び幹線道路稚内音威子府間早期整備促進期成会総会（浜頓別町）
- 25日 中頓別町戦没者慰霊祭
- 28日 中頓別観光開発株式会社定時株主総会
- 30日 名寄駐屯地創立57周年記念行事（名寄市）

### 6月

- 1日 浜頓別町・中頓別町「命をつなぐ街道」国道275号早期整備促進期成会総会（浜頓別町）  
議会運営委員会
- 3日 北海道町村議会議長会第61回定期総会（札幌市）
- 6日 中頓別鍾乳洞まつり
- 10日 第2回定例会  
議会広報編集特別委員会
- 19日 いきいきふるさと常任委員会（北海道国保地域医療学会・札幌市・2名派遣）
- 23日 議会広報編集特別委員会



全道町村議会議長会定期総会で、医師不足解消対策を提案する石神議長

## 全道議長会で医師不足解消対策を議決

全道町村議会議長会の第61回定期総会が6月3日札幌市で開催され、各議長会から提出された13議案がいずれも満場一致で議決され、国や道などに対し早急な対策を要望することになりました。

宗谷町村議会議長会からは、本町が提起した「医師不足解消と緊急臨時的医師派遣システムの要件緩和について」が石神議長によって提案されました。

これは、医師の絶対数の不足と偏在により、地域医療の崩壊が叫ばれる中、へき地における自治体病院を守り、地域住民の生命を守るため、①国の責任において医師の総数を増やす施策の推進、②医師を必要とする自治体病院へ都道府県を介さず国が直接医師を派遣できるよう「緊急臨時的医師派遣システム」の制度拡充及び要件の緩和が柱となっています。

また、大規模酪農地帯を抱える釧路議長会からは、酪農・畜産振興対策の一環として、口頭で口蹄疫対策（道内へのウイルス侵入防止、風評被害防止）が緊急提案されました。

町村議会の活性化と議会の権限の拡充、保健・医療・福祉政策の一体的な推進などを主な事項とする決議や北海道新幹線の建設促進に関する特別決議も全会一致で採択。総会終了後には、北海学園大学法学部・神原勝教授による「自律自治体の構築と議会の役割」と題した講演も行われました。

## 編集後記

六月に札幌市で開催された北海道国保地域医療学会「地域医療は誰が守るのか？」に参加する機会を得ました。

千葉県立東金病院長・平井愛山先生の講演は、平成18年に内科医12名が2名に激減し、医療現場で「地獄を見た」危機的状況から、どのように回復し、地域医療を守ったのかという内容であり、そこには住民の参加・支援が欠かせなかったようです。

「住民が温かい気持ちを持って医師を迎え、『医師が留まりたくなくなる町』を目指してください」との提言に、医師と住民の信頼関係の重要性を感じました。

中頓別町は、医師を継続的に確保することがこれからも課題です。

しかし、「医師確保」という言葉には、「医者的心」を置き忘れたかのような、地域の視点だけを押し付けた言葉のようにも感じます。

最近、「十年後の中頓別」を想像するようにしています。十年後の病院の姿はどうなっているのでしょうか？

いまからどのような準備ができるのか、住民のみなさんと一緒に想像力を働かせて町の未来像を考えていきたいと思いません。

「温かな気持ちで医師を迎える」そんな未来をつくっていききたいですね。

議会広報編集特別委員会(西)